

ハイスクールD×F×Z

赤宮士道

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

人類を救ったマスターと英霊達。そして、世界の平和を守るため戦い続けた、平成ライダー。▼今、その力が未来に受け継がれる。▼祝え、新たな英霊の誕生を！ その名はフェイトライダージオウ

# 目次

EP : 00 救いたい命2018	1
第一章 旧校舎のディアボロス	
EP : 01 友人の死と怒りの2019	3

## EP：00救いたい命2018

真夜中のとある公園で一人の少女が化け物に襲われそうになっていた。

悪魔「死ぬがいい、哀れな人間よ」

少女「いや!!誰か助けて!!」

しかし、その時

『アーマータイムー』『セイバー!』『シユヴァリエ・デオン!』

と言う音と共に悪魔に誰かが斬りかかるので悪魔は

悪魔「ぐっ!?誰だ!!」

と叫ぶと空の雲が晴れ、月の光と共に一人の騎士が現れるて

ジオウ「俺の名前はフェイトライダージオウ。この世界に害をなすはぐれ悪魔。貴様を狩る者なり」

悪魔に可憐に斬りかかるのでそれを見ていた少女はさつきまで殺されかけていたのに関わらず

少女「きれい」

ジオウに見惚れてしまっていた。

そして、

ジオウ「これで、チェックメイトにしましょう」

『フィニッシュタイム!!』『シユヴァリエ・デオン』

ジオウはベルトを360度回すと、フランス王権を象徴する百合の花びらが周囲に撒き散らされる中、鮮やかに剣を振るって舞うと悪魔は

悪魔「なんだ!?体が動かん!」

と言いながら動かなくなると同時に

『百合の花散る剣』『タイムブレイイク』

必殺の剣撃を叩き込むと悪魔は

悪魔「ぐあー!」

断末魔の叫びをあげながら消滅するのを見て

ジオウ「ミッシヨンコンプリート」

俺は少女の元に近づくと

ジオウ「大丈夫かい？」

と問いかけると少女は

少女「はい、助けてくれてありがとうございます」

と言って頭を下げるので

ジオウ「どういたしまして、じゃあ家まで送るからこのバイクに乗って」

俺はバイクライドウォッチを起動してバイクを出現させると

少女「でも、私に帰る場所はないんです」

少女はと言って泣きだすので

ジオウ「それってどういう意味？」

と聞くと少女は

少女「分かりません、家族も友達も幼馴染も皆私のこと知らないってそして、あの化け物が襲ってきて」

と言うので俺は

ジオウ（どういうことだ？あのはぐれ悪魔がこの子以外の記憶を消したのか？それとも墮天使か？どちらにせよほつとけないか）

考えても答えが出てこなかったので変身を解除して

海龍「俺の名前は常磐海龍。今日から君の家族になる者って感じかな？よろしくな」

と言うと少女はまた泣き出すので

海龍「ごめん、急にこんなこと言ったってびっくりするよね」

と言って謝ろうとすると少女は

少女「いえ、うれしくて、私の名前は紀仲凜祢です。今日からよろしくお願いします。」

と言って立ち上がってこっちに來るので俺はバイクに乗り、凜祢もバイクに乗ったのを確認してバイクのエンジンを掛けて俺の家に向かう。

# 第一章 旧校舎のディアボロス

## EP：01友人の死と怒りの2019

俺が凜祢を家族に招いてから一年が経って俺と凜祢は駒王学園の高校二年生になった。

そして、現在俺はある物を作りながら

海龍「もうすぐで完成する。凜祢のジクウドライバーとゲイツライドウオツチが」

と呟くと一回時間を確認する為、時計を見ると朝の7時になっていた。

海龍「もうこんな時間か、朝飯作るか」

作業場の椅子から立ち上がり、キッチンに向かうとそこには

凜祢「おはよう海龍さんご飯出来てますよ」

凜祢が朝飯を作って先にリビングの椅子に座っていたので、

海龍「ごめんな、今日は俺が朝飯作る当番だったのに」

と謝ると凜祢は

凜祢「ううん、このぐらい大丈夫ですよ。だから、早く朝ご飯たべ

ましよ？」

と言うので俺は

海龍「ああ」

と頷いて椅子に座り

海龍&凜祢「「頂きます」」

俺と凜祢は朝飯を食べ始めてから数十分後、俺と凜祢は家を出て、

駒王学園に着くと

村山「こらー！変態三人組！」

片瀬「また部室覗いたー！」

と声がするので

海龍「またか」

凜祢「ハア、あの人達も懲りませんよね」

と振り向くとそこには

一誠「私は関係ないのに——!!」

元浜「いやー、村山はいいおっぱいだっただな」

松田「片瀬もなかなか」

同じクラスの兵藤一誠、松田、元浜が女子達に追いかけられていた  
ので

海龍「凜祢ちよつと、行ってくるは」

と言って三人の元に向かおうとすると

凜祢「いつてらしゃい、海龍さんさつきに教室の行ってまね」

凜祢はと言うので

海龍「分かったよ、凜祢」

と言ってから三人の元に向かうと

一誠&松田&元浜「「どけ（いて）ええええ海龍（さん?!）!!」」  
と叫ぶので

海龍「アホかお前ら!!」

と言って一誠以外の二人にパンチすると

松田&元浜「「ぐはあ」

と言って止まって一誠に関しては木にぶつかりそうになるので

海龍「危ない!」

手をひっぱてこちらに引き寄せて受け止めると

一誠「ありがとうございます、海龍さん」

一誠は頭を下げてお礼を言ってくるので

海龍「無事で何よりだ」

と安心していると後ろから女子達が来て

村山「海龍君、変態三人組止めてくれてありがとね」

片瀬「さあ、観念しなさい」

三人に近づいて行くので俺は

海龍「その件なんだが、一誠は関係ないから見逃してくんない?」

女子達にと言うと一誠は目を見開くので俺は

海龍「実はな一誠はたまたま女子更衣室の前を歩いてたらこの馬鹿  
共に誘われたから行っただけなんだよ。だから頼む!!」

と言って頭を下げると村山と片瀬は慌てて

片瀬「海龍君がそこまで言うなら」

村山「一誠は無関係でいいのよね？」

と聞いてくるので俺は

海龍「ああ、だから頼む」

とお願いとすると村山と片瀬は

村山&片瀬「分かったわ」

と一誠を見逃してくれるので俺は

海龍「ありがとな二人とも、行こう一誠」

と言つて手を引つ張ると

一誠「あ、はい」

一誠は呆然と歩きだす。

—放課後—

俺は凜祢と家に帰ろうとしていると正門で一誠が一人の女子と歩いているのを見て凜祢は

凜祢「海龍さん、あの子って人間じゃないですよね!？」

と言うので俺は

海龍「凜祢、先に帰つててくれないか？」

と呟くと凜祢は

凜祢「はい」

と行つて家の方に行くので俺は

ライドストライカーに乗つて

二人の後を追いかけて公園の近くにライドストライカーを止めて公園に入つていくと

血まみれで一誠が倒れていたの

海龍「一誠!？」

一誠の元に走つていくと一誠は

一誠「海龍……さん……よかつた……最後に……会えて……  
今までありがとう」

と言つて目を閉じると墮天使が

墮天使「おかしいわね、此処には人間が入れなように結界をしといたハズだけど？」



と言うので我（俺）は  
海龍『おい、その雑種（墮天使）なぜ故にこの娘（一誠）をした  
？』

と聞くと

墮天使「それは彼女が神器を宿していたからよ」

と答えるので我（俺）は

海龍『そうか、そんな理由で貴様（お前）はこの娘（一誠）殺した  
のか!!』

と叫びジクウドライバーを腰に巻いて二つのライドウオッチを起  
動する。

『ジオウ』『ギルガメツシュ』

そして、ジクウドライバーにセットしてジオウはベルトを360度  
回すと

『フェイトタイム!!』『フェイトライダージオウ』

という音声と共に俺はフェイトライダージオウになり

『アーマータイム!』『アーチャー!』『ギルガメツシュ!』

そして、そのままフェイトライダージオウギルガメツシュアーマー  
になり

ジオウ『消えろ!!雑種（墮天使）!!』

『フィニッシュタイム!!』『ギルガメツシュ!』

そして、我（俺）はベルトを360度回して

ジオウ『——裁きの時だ』

ジオウ『世界を裂くは我が乖離剣!』

ジオウ『受けよ!』

と言って乖離剣エアを構えると

『天地乖』『タータイムブレイク』

エアが回転し三つの円筒が風を巻き込み生み出すと、圧縮され鬨ぎ  
合う暴風の断層が擬似的な時空断層となって雑種（墮天使）に襲い掛  
かろうとした時、雑種はその場から空中に飛んで逃げようとするので  
ジオウ『逃がしはしない』

と追いかけてようとすると、魔法陣が現れるので

ジオウ「くっ、此処は引くでしょう。覚えてけ雑種（墮天使）次はない（ぞ）!!」

と呟いて変身を解除してライドストライカーに乗り家に帰ると凜祢が

凜祢「どうかしたんですか？海龍さん？」

と言うので俺は

海龍「なんでもないよ。凜祢」

と言って部屋に入ると

海龍「くそがあああああ!!何が守るだ!!何が友達だ!!大事な友達一人守れないのに!!俺は!!俺は!!」

と泣きながら叫ぶ。